

推量」を防ぐことのできる優れた出題形式であるが、現段階では解決すべきいくつかの問題がある。そのため、平成9年試験への導入は見送るが、その導入に向け技術的問題等についてさらに検討を続けることとする。

イ 実技試験

医師としての基本的診療能力（「マナー」を含む）については、筆記試験による評価だけでは不十分であることから実技試験を実施する意義は大きい。現段階では医師国家試験への実技試験の導入は受験者数や試験を実施する事務局の体制等の制約から困難であるとしても、将来に向かって医師国家試験への導入等について今後とも検討を続けることとする。

ウ 応用力試験

医師国家試験では、単に医学知識の量を評価するだけでなく、適切な情報を獲得する能力や得られた情報を適切に分析できる能力といった、応用力の評価も望まれる。現在でも問題解決型（Taxonomy III型）の問題をできるだけ増やすよう試験委員の努力がなされているが、米国における医学校の入学者選抜に用いられている Skills Analysis 等を参考として、将来的には受験者の応用力をより積極的に評価できるような試験方

法の導入について検討を続けることとする。

5. その他

今回の改善は、全人的医療の実践に努める医師としての適性についての評価を念頭に置いたものであり、今後ともできる限りこのような努力が続けられるべきであるが、資格試験としての限界があることも事実である。したがって、医師としての適性については単に医師国家試験だけの問題としてではなく、社会の在り方全般に亘る課題として取り組むことが望まれる。

おわりに

今後は、出題形式の検討を含めた懸案事項について、今回の改善結果を踏まえながら逐次審議を続けることとする。しかしながら、医師国家試験の改善は、卒前の医学教育や医師免許取得後の臨床研修、あるいは医師の生涯教育等の充実とあいまってその本来の目的が達成され、国民の期待に応えることのできる質の高い医師の確保が可能となるものであるから、今回の改善が実効を伴ったものとなるよう関係各位の一層の努力を期待するものである。

資料6：医師国家試験改善検討委員会報告書

厚生省*（平8.3.25）

本改善検討委員会は、医療関係者審議会医師部会の専門委員会として平成2年3月に設置され、以後、医師国家試験の改善の方策を逐次検討してきた。

今回の改善は、平成7年4月に国家試験改善の基本的な方向等について意見をとりまとめて以来、平成9年（第91回）の国家試験実施に向けて具体的方策について検討したので報告する。

医師国家試験出題基準の改定については、平成9年の医師国家試験から活用するため、平成7年7月に医師国家試験出題基準改定委員会（委員長：細田瑳一）を設け、医の倫理的問題、プライマリ・ケアに関する問題、各専門領域を横断的に考えさせる診断に関する問題など、医師として医療の第一歩を踏み出すのに必

要な基本的知識・技能を重視する趣旨に沿って審議したところ、必修事項の範囲を明確化するために「必修の基本的事項」として新たに章を設ける原案を得た。これについて、各医療機関の意見を聞いたところ概ね適当であるとの評価を得た。

本改善検討委員会においては、

- ①医の倫理的問題やプライマリ・ケアなど医師として必要な事項でありながら出題が難しいとされてきた問題の取扱い
- ②患者の死亡や不可逆的な臓器の機能廃絶に直結する事項等に関する問題の取扱い
- ③受験者の知識量を正確に得点に反映させるための出題形式等について医師国家試験出題基準改定委員会からの報告を含め総合的に検討を行った結果、以下のとおり改善点を取りまとめた。

* 医師国家試験改善検討委員会、委員長：高久史磨

1. 医の倫理的問題等を含め、医師としての必修事項を必修問題として出題する。ただし、出題範囲を医師国家試験出題基準の「必修の基本的事項」に限定する。
2. 患者の死亡や不可逆的な臓器の機能廃絶に直結する事項等を新たに禁忌肢問題として出題する。
3. 受験者の知識量を正確に反映させるために、当面、長文問題に五肢複択形式 (X 2, X 3 type) を導入する。
4. なお、合否判定に当たっては、必修問題、禁忌肢問題の新たな取扱いを設けるとともに、適切な領域を設け、領域別の判定を導入することが望ましい。
 今後は、今回の改善結果を踏まえながら更に改良を加えるための検討を進めるとともに、試験問題形式の改良等、検討すべき事項について逐次審議していくこととする。

資料 7：医師国家試験の回数別合格者数

厚生省

回数	施行年月日	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)
90	8. 3.16~17	9,057	8,088	89.3
91	9. 3.15~16	8,898	7,843	88.1
92	10. 3.20~21	8,716	7,806	89.6
累 計 (1回~91回)		337,388	281,734	83.5

資料 8：医療関係者審議会医師部会意見

厚生省* (平 8.4.10)

今回の医師国家試験の改善では、医師国家試験出題基準の改定と併せて、医の倫理やプライマリ・ケアなど、医療に第一歩を踏み出す医師としての基本的知識・技能をより適正に評価できるよう必要な改善が図られた。

については、漸次改善の実をあげながら、次期改定を目指すこととするが、平成 9 年からの試験に際しては、

卒前教育の実情を踏まえ、かつ、以下の点に留意して実施に当たるものとする。

1. 試験問題数は、従来どおり 320 題とし、内訳は、必修問題 30 題、一般問題 180 題、臨床実地問題 110 題とする。
2. 必修問題については、医の倫理問題等を含め、医学・医療の必修事項を総合的に出題する。

* 医療関係者審議会医師部会、部会長：高久史麿